

1998年8月の情報です。

平成9年度水質汚濁の状況について

II ダイオキシン類の測定結果について

1 目的

県内の代表的な公共用水域である境川、相模川、金目川及び酒匂川の4河川、相模湖、津久井湖、丹沢湖及び芦ノ湖の4湖沼、東京湾及び相模湾の2海域において、年度ごと測定地点を選定し、水質、底質及び魚についてダイオキシン類を測定する。

2 測定地点

平成9年度は、河川では、境川(河口部)、金目川(河口部)の2河川、湖沼は相模湖、丹沢湖及び芦ノ湖の3湖沼、海域は東京湾(中ノ瀬)、相模湾(茅ヶ崎沖)の2海域において測定した。

3 測定時期

平成9年11月～平成10年3月

4 測定結果

○ 平成9年度の測定結果は資料P16-表19に示すとおり、水質からは検出されなかったが、底質からは不検出～9.2pg-TEQ/gの濃度範囲で検出され、相模湖では9.2pg-TEQ/gであった。魚からは、丹沢湖のワカサギで1.5pg-TEQ/g、東京湾(中ノ瀬)のスズキで0.7pg-TEQ/gの濃度で検出されたが、相模湖のブラックバスと相模湾(茅ヶ崎沖)のヒラメは不検出であった。なお、底質及び魚のいずれからとも毒性が一番強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾパラジオキシンは検出していなかった。

○ 水質、底質及び魚中のダイオキシン類濃度を評価する基準がないので、これらの検出値について評価はできないが、資料P16-表20に示すとおり、県で行った平成元年度から平成9年度までの9年間のダイオキシン類の測定結果と環境庁が行った全国レベルの測定結果と比較すると、県内の底質、魚ともに、全国レベルより下回っていた。

5 今後の対応

水域環境におけるダイオキシン類の測定は、県内の汚染の概況を把握する目的で、平成元年度から行ってきたところであり、今後とも、継続して測定を実施する。

表19 平成9年度測定結果

測定地点		水質(ng-TEQ/l)	底質(pg-TEQ/g-dry)	魚(pg-TEQ/g-wet)
河川	境川(河口部)	不検出	6.7	—
	金目川(河口部)	—	不検出	—
湖沼	相模湖(湖央部)	—	9.2	不検出(ブラックバス)
	丹沢湖(湖央部)	—	2.5	1.5 (ワカサギ)
	芦ノ湖(湖央部)	—	8.5	—
海域	東京湾(中ノ瀬)	—	1.0	0.7 (スズキ)
	相模湾(茅ヶ崎沖)	—	0.8	不検出 (ヒラメ)

表20 全国レベルとの比較

	県(元年~9年)	備考
--	----------	----

	全国レベル(元年~8年)		
水質	—	不検出(延べ38件体)	—
底質	不検出~75(延べ281件体)	不検出~32.2(延べ59件体)	全国最高値:7年度 県最高値:4年度
魚類	不検出~11(延べ270件体)	不検出~3.7(延べ36件体)	全国最高値:3年度 県最高値:元年度

出典:環境庁環境保健部報告書「化学物質と環境(元年~8年)」

〈参考〉用語の解説

1 ダイオキシン類

ダイオキシンは、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン(PCDD)の通称であり、これにポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)を加えてダイオキシン類とする。

2 pg(ピコグラム)

重量を表す単位で、1兆分の1グラムを指す。

3 ng(ナノグラム)

重量を表す単位で、10億分の1グラムを指す。

4 TEQ(毒性等量)

ダイオキシン類の中で、最も毒性の強い2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾパラジオキシンに換算した濃度である。